

美と健康は歯が支える

歯を失った場合の治療、生活の質を向上させる
口元の美しさについて、専門医に聞きました

取材・文◎読売新聞 渡辺勝敏

Part 1

歯を喪失したら、 自分に合った選択を

総入れ歯からインプラントまで、
医師とじっくり相談して

歯を失う原因はさまざま

整った噛み合わせは、食べるこ
とや話すことだけではなく、脳の
働きや全身の健康。見た目の印象
にも大きく関与します。しかし、
年を重ねれば、歯を失うことも
そんな時には、どんな治療法を選
べばよいのでしょうか。

歯を失う原因は、若いころは虫歯
が上位です。虫歯の治療で神経を抜
くと、次第に歯がもろくなります。
その結果、強く噛むことで割れたり
ひびが入ったりして歯を失うことも
少なくありません。そして40歳を超
えると、歯周病が増えてきます。国
の歯科疾患実態調査（2005年）を
見ると、失った歯の本数は40代後半
で平均2.3本、50代前半では3.7本、み
なさんはいかがでしょうか。

場合、「ブリッジ」という選択肢があ
ります（右上図参照）。両隣の歯を削
ってかぶせ物をして、間に人工の歯
を置く。橋げたようになるので、
ブリッジと呼びます。だいたい、2
本の歯を失った場合に適応し、3本
ぐらいいまが限度でしょうか。両隣
に支える歯が必要なので、一番奥の
歯がなくなった時はできません。

ブリッジは歯に固定するので、自
分の歯のように使えるところが利点
で、一般的に行われています。欠点
は、健康な両隣の歯を削らざるをえ
ないこと。歯は表面の硬いエナメル
質に守られているのですが、エナメル
質を削って内部の象牙質を露出さ
せるため、そこから新たな虫歯にな
る可能性があります。また、支える
両隣の歯に負担がかかってしまうの
で、注意が必要です。

講師 古谷野 潔

九州大学大学院歯学研究院
口腔機能修復学講座インプラント・
義歯補綴学分野教授

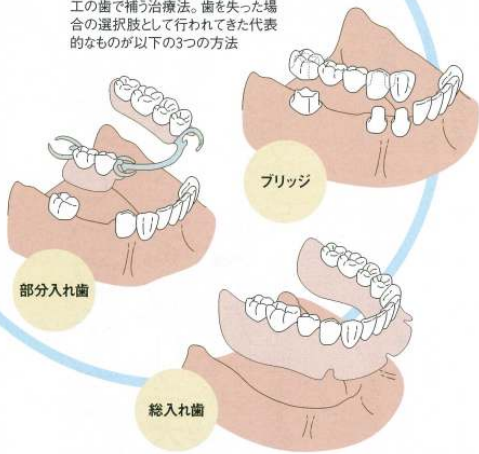
こやの きよし 1955年福岡県生まれ。83
年九州大学歯学部卒業。91年文部省在
外研究員、アメリカ合衆国UCLA visiting
associate professor。97年九州大学歯学部
教授。2003年同大学歯学部附属病院院長
などを経て現職。日本補綴歯科学会理事長



撮影◎須藤タチ 78

従来の欠損補綴装置

補綴とは、見た目や噛み合わせを人
工の歯で補う治療法。歯を失った場
合の選択肢として行われてきた代表
的なものが以下の3つの方法



金属のほうが設計の自由度が高いの
ですが、こちらは自費になります。

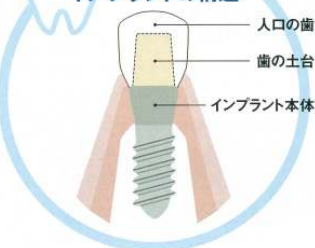
入れ歯にしたら、味覚が変わった
と言う方がいますが、熱を伝えにく
いプラスチックに食べ物温度が遮
断されることも一因です。金属のほ
うが温度を伝えやすくて、より繊細に
食感が得られるのです。

歯は発音にも影響します。たとえ
ば、「ん、し、す・せ・そ」は、舌が
上顎に当たるか当たらないかのとこ
ろで発音しますが、入れ歯になると、
微妙に発音が違ってしまふというこ
とも。ただ、入れ歯にするのが難し
い口腔内の状態もあります。上は左
側、下は右側だけが残っていて、噛
み合う歯がなくなっている場合など

は、噛み合わせの力の調整が難しい
からです。

ブリッジや部分入れ歯にしたら、
残りの歯のメンテナンスや入れ歯の
チェックも含めて、歯科で定期的に
点検をしてください。3カ月・半年
に1回がいいでしょう。「入れ歯が
合わない」という声を耳にしますが、
ていねいに作って、繰り返し調整す
れば、使いやすいものができるはず。
総入れ歯でも半年・1年に1回は検
査が必要です。歯を失うと、歯を
支える歯槽骨が徐々に減り、歯茎も
下がってきます。入れ歯そのものの
劣化もあり、時間が経つと合わなく
なるものです。入れ歯安定剤を付け
て使い続けている方もいますが、本

インプラントの構造



来、びたっと合うよう調整すること
や、数年単位で作り替えることが必
要と心得てください。どうしても安
定剤を使いたい場合は、厚みがない
クリーム状のものを、厚みがあると、
入れ歯がずれて歯槽骨に余計な力が
かかり、骨が減りやすくなるからで
す。

また、入れ歯のトラブルとしては、
災害時に失う、旅行先で忘れる、下
にコマガ入って痛い、などというこ
とも聞きます。総入れ歯ではカラ
オケで大きな口を開けて歌にくい
など、やはり不都合な点があります。

第3の歯を手に入れる

これに対して、インプラントは、
顎の骨の中にチタン製のネジのよう
なものを埋め込み、その上に人工の
歯を接続するので、自分の歯が生え
たようなものです。入れ歯では噛む

力が5分の1程度になってしまふ場
合もありますが、インプラントは骨
の中で支えているので、しっかりと
噛む力があります。乳歯、永久歯に
続く、第3の歯とも言われるほど。
実は、私自身、2年前に奥に2本、
インプラントを入れました。

しかし、インプラント治療とい
うのは、手術が必要です。下顎の骨に
は、神経と血管が通っているため、
誤ってインプラントが神経に当たると
しびれが残りますし、血管なら出
血してしまいます。また、安全に手
術を行うには、糖尿病や高血圧の方
は持病の管理が必要です。血液をさ
らさらにする薬の服用中は手術中の
出血が止まりにくくなりますし、骨
粗しょう症で使うビスフォスフォネ
ート系の薬を飲んでいて、骨壊
死が起こった例もあります。持病の
ある方は、主治医にインプラント治
療について相談してください。

インプラントは一度入れたらおし
ま、ではありません。きつちりと
歯を磨いて清潔にしておかないと、
「インプラント周囲炎」という歯周
病のような症状が起こり、インプラ
ントを失うこともあります。インプラ
ントは大変優れた治療方法ですが、
高額な自費診療であり、高度な技術
を必要とする手術だということを理
解したうえで、歯科医の説明をしつ
かり聞いてください。